

とこ若と棟持柱の鳥居
外宮に入つていつも、始めに聞かせてもらうのは式年遷宮にまつわるくだりです。

とこ若と棟持柱の鳥居

田神宮や宇佐神宮など全国に散らばる神宮の総本山であり、伊勢こそがTHE神宮なので地名を冠につけたりしないのだそうです。なので、伊勢の神宮と呼ぶならまだしも、伊勢神宮とは呼ばない様にと釘を刺されました、毎年通り始めて7年目にして初めて知つた事実です。ほぼ毎年、ガイドさんに案内して頂いていますが、来る度に新たな発見や気付きを貰えるのは本当に有り難く、感謝することしきりでした。



お社の棟持柱
これが外宮の大鳥居に使用される

伊勢の神宮にみる サスティナビリティー ～常若の思想～



外宮の大鳥居

サステイナビリティー
とは謙虚さ

ちなみに、伊勢の神宮神殿を造る宮大工は大工と言わず小工と呼ぶそうです。小工とは大工の下の技術職との意味もありますが、ガイドの伊藤さんによれば20年しか持た

ガイドの伊藤さんの言葉を
一つ一つを噛み締めながら、
1300年の時を経て、今も
伊勢にリアルに息づく常若の
概念、その圧倒的な持続性の
実績を以て、日本の共生・循
環の思想を私達が世界中に広
げなければならんと、その必
要を強く感じつつ神宮を後に
しました。

毎年、お詣りする度に新鮮
な気付きを貰える、貴重な機
会を頂けることに心から感謝
します。

伊勢神宮は存在しなし

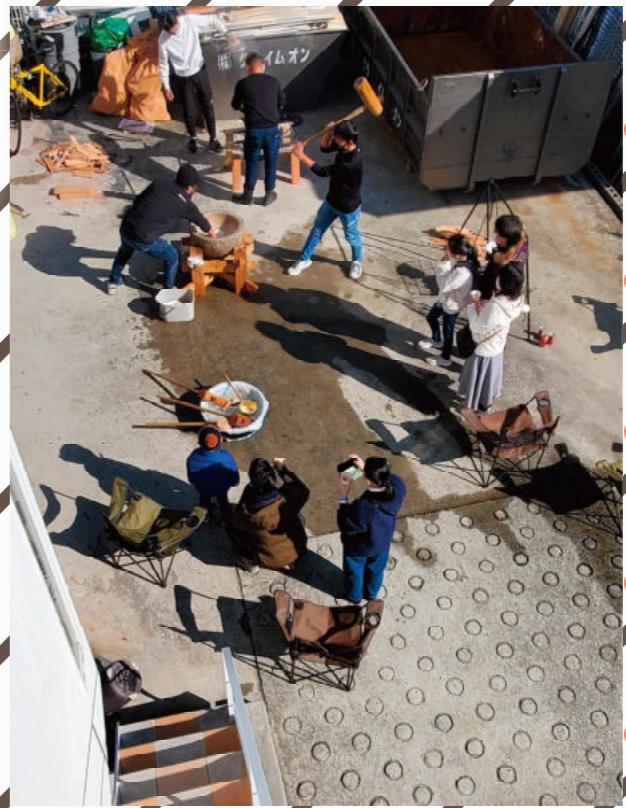
毎年1月の後半に伊勢の神宮にお参りする様になつてかれこれ7年。毎年欠かさずお詣りをしています。今年も外宮前にある観光センターでボランティアガイドさんをお願いして神宮にまつわる様々なる解説を頂きながら外宮から内宮、そしてゼロ磁場として有名な瀧原宮にお参りしました。

は日本独自の文化を紐解く非常に重要な考え方ということです。いつもとても丁寧に説明をしてくださいます。今日は外宮の入り口に結界を張る鳥居が式年遷宮の際に取り壊されるお社の棟木を支える棟持柱を削り出して作られ、その他の解体材も単に廃棄処分するのではなく、全て今時の言葉で言うところのリサイクル、リユースして再生利用されると教えてくださいました。

2022年1月8日、コロナ対策を万全にした中、2年ぶりの餅つき、事務所で行うのは10年ぶり?ぐらいの餅つきを開催しました。

餅つきをする臼(うす)と杵(きね)の形はそれぞれ女性と男性を表し、子孫繁栄、家の繁栄の象徴として、各家庭で大切にされてきました。昔は、家を新築する場合、大工さんは臼と杵も作り、その家に納めていたそうです。今のご時世は、臼と杵をもらってもお困りのご家庭がほとんどだと思いますので、当社で餅つきをして振る舞う、というのが現代風かなと思っています。

また、江戸時代には長屋の火消し衆たちが年の瀬に集まって餅をつき、各家々に火の用心を伝えながら配っていたと書いてある文献があります。みんなでついて、みんなに配る。そんなコミュニケーションの一つとして餅つきが行われていたようです。株式会社四方継でも、地域の皆様とのコミュニケーションの一環としてこれからも続けていきます。



全てのお客様へ お詫びと お願ひ

弊社商品 生産遅れ対応状況について

根据 2021 年 3 月 3 日

摘載：2021年9月2日

• 2021年12月2日

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、リブライヤーの生産に支障が生じました、世界的な需要急拡大により部品調達に影響が生じ、
お預いをさせていただきたく、ご依頼を頂く全てのお客様にご理解を賜りたくご連絡申し上げる次第でございます。

今後もより一層の品質・サービスレベルの向上に取り組み、誠心誠意、精励いたします所存です。
何とぞ諸般の事情をご賢察の上、ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

株式会社四方継 代表取締役
高橋 剛